

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370372

研究課題名(和文) フローベール『聖アントワーヌの誘惑』におけるファム・ファタル神話研究

研究課題名(英文) A Genetic Study of the Femme Fatale in Flaubert's The Temptation of Saint Anthony

研究代表者

大鐘 敦子 (Ogane, Atsuko)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号：50350541

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：フローベールが「生涯の作品」とよび一生に三度も書きなおした『聖アントワーヌの誘惑』に登場する宿命の女性像は19世紀のロマン主義や象徴主義の概念に多大な影響を与えたと言われている。本研究では従来顧みられなかった第二稿の全自筆原稿と、本作品のために作家が準備した4つの「読書ノート」を解説・転記して公開し、最も難解で膨大な初稿と晩年の決定稿との間に見られる作品構造の差異を実証的に辿りつつ19世紀ファム・ファタルとフロベールにおけるファタリテの問題を捉え直した。成果はフローベール研究所および日仏の文芸雑誌に発表するとともに、メッシナ大学で草稿に関して講演し、ジャンヌ・ペム女史を招聘して議論を深めた。

研究成果の概要(英文)：The figure of 'femmes fatales,' which appears in Flaubert's work The Temptation of Saint Anthony that he had called 'the piece of my life' and wrote three times, has influenced considerably the concept of romanticism and symbolism in the nineteenth century. In order to clarify the discrepancy of the structure and the formation of the figure of 'femmes fatales' in the three versions, we conceived the diplomatic transcriptions of the two hundred folios of the manuscript for the second version, as well as four notebooks for the preparation of the novel, and we reexamined the problematics of this concept and the theme of fatality.

研究分野：19世紀フランス文学

キーワード：ギュスターヴ・フローベール 『聖アントワーヌの誘惑』 Rene de Saba Femme fatale fatalite Notes de lecture 草稿 生成研究

1. 研究開始当初の背景

今日もなお、フローベールが「生涯の作品」と呼んだ戯曲『聖アントワーヌの誘惑』は、あらゆる宗教を百科全書的に扱いつつもジャンルの混交がみられるがために、多くの研究者にとって近寄り難い作品となっている。また、この作品が青年期に始まり、『ボヴァリー夫人』の出版を挟んで、晩年に至るまで、三回も書き直されたこと、第一稿、第二稿と決定稿に大きな相違がみられることから、有名なミッシェル・フーコーやヴァレリーの論文等はあるものの、専門家にとっても分析自体が困難であり、他作品と比較して研究が少ないことは否めない。2013年11月には世界的校訂批評版・新プレイアッド『フローベール』全集に本作品の『初稿』(1849)および『第二稿』(1856)がジゼル・セジャンジェール女史によって、上梓された。そのため、申請者は、継続している同作家におけるファム・ファタル像の形成とファタリテの問題について、時間軸を遡りながら、『ヘロディアス』や『サラムボー』で考察したファム・ファタル像を踏まえつつ、作家が本作品で描いたファム・ファタル的女性像に焦点を絞り、従来の神話学的議論を統括し、草稿研究の成果を取り入れつつ、最新の校訂版と草稿研究を用いて新しい側面からの分析を展開することとした。

研究開始当初、作業は療養のため大幅におくれたが、申請者は並行して上梓予定だった『サラムボー』研究の成果である「プランとシナリオ」の転記作業の経験に照らして、まず『聖アントワーヌの誘惑』の「プランとシナリオ」の確認作業から開始した。折しも、2014年には、ジゼル・セジャンジェール女史が *Scénarios de La Tentation de saint Antoine - Le Temps de l'œuvre* (『聖アントワーヌの誘惑』のシナリオ)において約100枚の草稿のリプリント版と転記を上梓したので、その考察をすすめつつ、転記すべき草稿の判定に時間をかけることとなった。殊に、第一稿と第二稿の加筆・削除箇所について、従来の校訂版とセジャンジェール版では扱い方が異なったため、草稿の問題箇所解明の基盤をつくるためにも、どの版を扱うかということが考察の焦点になった。

また一方で、これまで手がけてきたプランとシナリオ等初期草稿におけるフローベールのエクリチュールの分析および、その出版のための草稿転記方法の国際基準について、Droz社と数回にわたって打ち合わせ、フローベール草稿研究者たちと議論を重ねつつ、情報収集と分析を進め、転記の精度を高めることに努めた。

2. 研究の目的

19世紀後半のフランスでは、「ファム・

ファタル(宿命の女)」のモチーフは、女性の表象において、文芸分野で最も注目されたテーマの一つであった。プラーツやダイクストラでも指摘されているように、レアリスムの父フローベールの戯曲『聖アントワーヌの誘惑』(1874)は、この概念の成立に多大な影響を与えたといわれている。

本研究は、19世紀後半のファム・ファタル神話形成の原点に『聖アントワーヌの誘惑』が果たした役割について、同作家の他作品の女性像-サロメ(『ヘロディアス』)やサラムボー(『サラムボー』)-との生成比較研究によって分析し、世紀末や象徴主義に与えた影響を明らかにする。また、同時に、周辺の考証資料との異同や、作家がこの作品のために準備した「読書ノート」、三稿の比較により、作家に固有のサンボリスムの文体を分析し、『聖アントワーヌの誘惑』がフローベールの女性像形成に果たした役割を明らかにすることを目的とした。

特に以下の点について調査・分析を行った。

1) 2013年11月にフランスで出版された最新のプレイアッド校訂批評版『聖アントワーヌ』の「初稿」および「第二稿」を用い、ファム・ファタル形成の構造の変遷を明らかにする。

2) 「シバの女王」および「ヘレナ」像等のファム・ファタル性について内的生成の観点から、作品の草稿、作家の読書ノート、作業手帳から分析を行う。

3) 『聖アントワーヌの誘惑』のために作家が準備していた未解読を含む数編の「読書ノート」を解読し、如何にそれらが作品に組み込まれているかを明らかにする。

3. 研究の方法

初年度は療養のため、上梓されたばかりの校訂版を元に、本作品のプランとシナリオを国内で考察することに努めた。二年目からは従来通り、夏季休暇を利用してフランス国立図書館草稿保存室およびフランス国立科学研究センター(Centre national de la Recherche Scientifique et Ecole Normale Supérieure)の近代テキスト草稿研究所(Institut des Textes et manuscrits modernes)のフローベール図書室で作業し、研究所のメンバーである『聖アントワーヌ』の専門家たちや校訂者たちにインタビューを実施した。

また同時に作家が本作品のためにまとめた「読書ノート」の解読・転記作業のため、ルーアン市立図書館で作業を実施したが、中にはフローベールが参照した文献の判定が難解なものもあり、作家が閲覧した可能性のあるいくつかの図書館で実地調査をしなければならなかった。また作家がかならずしも

原文をそのまま転写せず、参照文献のラテン語・ギリシャ語をフランス語に翻訳する際に不正確なこともあり、註作成には時間がかかったが、フローベール個人蔵書の調査により貴重な資料を作成し、公開することができた。

最終的には、もっとも難解な初稿の分析に一步でも近づくために、これまでもっとも顧みられることがなく、かつ生前に一部出版された箇所を含む、第二版の草稿転記を実施することとなった。

また、サバティカル中は、期間を通じて、国立科学研究所近代テキスト草稿研究所のフローベール研究所のセミナーおよびゾラ研究所のセミナーに参加して意見交換や議論を重ねるとともに、作家の故郷に設立されたルーアン大学フローベール研究所およびフローベール・モーパッサン協会主催のセミナー等にも積極的に参加し、ファム・ファタル像に関する成果を *Romantisme* に発表することができた。

4. 研究成果

本研究の目的は、平成 25 年 11 月に出版された『聖アントワヌ』の初稿・第二稿の世界的な新校訂版を用いつつ、これまで研究した中期および晩年のファム・ファタル作品との関連を生成研究によって明らかにすることにあつた。最終的には、ファム・ファタル神話形成において、リアリズム作家が世紀末や象徴主義に与えた歴史的影響を解明し、文学史上の新しい視点を拓くことに意義がある。その意味で、まず基盤として、これまで転記・解読が未着手であった『聖アントワヌの誘惑』のための作家が残した「読書ノート」（「キケロについてのノート」、「スキピオの夢」のノート、「エルプロのオリエン特典」のノート、旧約聖書「詩篇」の全ノート）のほぼすべての解読・転記ができたことは大きな成果であったと言える。それらは順次、ルーアン大学フローベール研究所の研究サイトに発表・公開しつつある。

また 2016 年には、草稿研究の成果の一つとして、研究成果公開促進費で上梓した *Réve d'Orient* (Droz, 2016) をもとに、草稿研究の伝統的なメッカであるイタリア、メッシナ大学文学部大学院から招待され、文学部および文学研究科合同の講演会においてフローベールのプランとシナリオを中心に草稿研究の問題について講演し、専門家たちと草稿の孕む問題について意見を交換した。（「Dans le laboratoire de l'écrivain : Flaubert au travail », 2016/4/27）。前採択課題であった草稿研究の成果である本校訂批評版については、フランス国立図書館の初代館長ノディエが創設した最も権威ある貴重草稿等に関する雑誌 *Bulletin du bibliophile* をはじめとして、*Revue d'Histoire Littéraire de la France*, *Site Flaubert*,

Nineteenth-Century French Studies, *Revue bibliographique*, *French Studies* 等に、フローベール小説の国際草稿転記プロジェクトで名高いフローベール研究所長 Yvan Leclerc や Jeanne Bem 女史、草稿研究の泰斗 P.-M. Wetherill, Eric Le Calvez らによる書評が各地で相次ぎ、*Salambô* の 98 枚(5500 枚中)の「プランとシナリオ」のディプロマティック転記と分類整理の校訂版によって、フローベールの熟年のすべての小説の初期草稿が出揃ったとして、非常に高い評価を受け、進行中の現継続課題にもこの技術と方法論を反映させている。

最終年度は、前年度のソルボンヌ大学大学院比較文学研究科客員研究員としてのサバティカル研究のため、研究期間を一年延長して、『聖アントワヌの誘惑』の泰斗であるジャンヌ・ベム女史（サール大学名誉教授）を関東学院大学に招聘した。考察中である第二稿に合わせて、初稿について（関東学院大学）、第二稿について（大阪大学大学院）講演を開催し、参加者との議論によって考察を深めるとともに、招聘教授と多くの意見交換をすることができ大変有意義であった。また日本フランス語フランス文学会では、ベム女史に「フローベール『ボヴァリー夫人』新プレイアッド叢書の舞台裏」と題して、日本人研究者たちにとっては未知である決定版叢書の校訂作業と出版の問題点について講演をしていただき、多くの研究者たちとの日仏学术交流の場を提供し、課題を深めることができ、日本人研究者たちに強い刺激を与えた。学会の特別講演では参加者は 200 名を超え、反響は大きかった。

一方、これらの成果を受けて、フランス 19 世紀ロマン主義学会（Société des Etudes Romantiques et Dix-neuviémistes）の前会長 Philippe Hamon 氏から、蓮實重彦著『ギュスターヴ・フローベール「ボヴァリー夫人」論』をフランスに紹介する要請を受け、*Romantisme* 誌書評を発表した。プレイアッド全集を出版するガリマール社がフローベール全集校訂者たちにこの書評を案内するなど、フランスでは大きな反応があった。また国内ではこれに並行して依頼をうけ、続編の論評を執筆したが、そこでは、草稿研究での分類整理の際のプランとシナリオの用語の問題等を組み込み、20 年来のフランスでのフローベール最新研究動向と日本人研究者たちの成果について、フランスの各研究所やプロジェクト関係者と情報を交換した上で、総括し、日本に紹介することができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 12 件)

Atsuko Ogane, « Notes sur la Bibliothèque

orientale d'Herbelot » pour *La Tentation de saint Antoine*, Transcription des manuscrits et la présentation, collection privée, Centre Flaubert, CÉRÉDI, Rouen, 2018. 査読有
<http://flaubert.univ-rouen.fr/manuscrits/dherbelot.php>

Atsuko Ogane, « Notes sur Psaume », Transcription des manuscrits et la présentation, collection privée, Centre Flaubert, CÉRÉDI, Rouen, 2018. 査読有
<http://flaubert.univ-rouen.fr/manuscrits/psaumes.php>

大鐘敦子, 『『聖アントワーンの誘惑』(第二稿) - *L'Artiste* 誌発表の戦略とファミ・ファタル像』, 『関東学院教養論集』, 関東学院大学法学部教養学会, 第 28 号, 2018, p. 31-41. 査読無

Atsuko Ogane, « Transcription diplomatique de La deuxième version de *La Tentation de saint Antoine* (1856) », Transcription des manuscrits conservés à la Bibliothèque nationale de France, et la présentation, site Flaubert, 2018. 査読有。

Atsuko Ogane, « Notes sur Cicéron, *Songe de Scipion* », pour *La Tentation de saint Antoine*, Transcription des manuscrits conservés à la Bibliothèque municipale de Rouen, et la présentation, Centre Flaubert, CÉRÉDI, Rouen, 2017. 査読有
http://flaubert.univ-rouen.fr/manuscrits/songe_sci_pion.php

Atsuko Ogane, « Notes sur Cicéron, « De nature Deorum » », Transcription des manuscrits conservés à la Bibliothèque municipale de Rouen, et la présentation, Centre Flaubert, CÉRÉDI, Rouen, 2017. 査読有
<http://flaubert.univ-rouen.fr/manuscrits/ciceron.php>

大鐘敦子, 『『聖アントワーンの誘惑』生成研究:ファミ・ファタルについての草稿転記と作業の問題点』, 『関東学院教養論集』, 関東学院大学法学部教養学会, 第 27 号, 2017, p. 39-66, 査読なし
<https://kaguopac.kanto-gakuin.ac.jp/webopac/bdyview.do?bodyid=NI30002978&elmid=Body&fname=004.pdf>

大鐘敦子, 『『ボヴァリー夫人』論』フランス紹介を終えて』, 『ユリイカ総特集 蓮實重彦』, 青土社, 2017, p. 72-85. 査読なし

Atsuko Ogane, Compte-rendu sur « *Madame Bovary de Gustave Flaubert* » de Shiguéhiko

Hasumi, *Romantisme*, septembre, 2017, p. 129-133, 査読有

10 Atsuko Ogane, « *Salammbô*, mœurs de Carthage, ou une histoire de la prostitution sacrée », *Revue Flaubert*, n°16, Centre Flaubert, CÉRÉDI, Rouen, 2018. 査読有
<http://flaubert.univ-rouen.fr/revue/article.php?id=232>

11 Atsuko Ogane, « Danse de Nana, danse de Salomé ? », *Romantisme*, n°174, « *La Mesure du temps* », Armand Colin, décembre 2016, p.111-120. 査読有

12 Atsuko Ogane, « Notes sur Plutarque et sur *Luxe des dames romaines* », Transcription diplomatique des manuscrits conservés à la Bibliothèque municipale de Rouen avec des notes et la présentation, Centre Flaubert, CÉRÉDI, mars 2016. 査読有
<http://flaubert.univ-rouen.fr/manuscrits/plutarque.php>

[学会発表](計1件)

Atsuko Ogane, « Dans le laboratoire de l'écrivain : Flaubert au travail », Université de Messine, 2016/4/27.

[図書](計2件)

Atsuko Ogane, *Rêve d'Orient –Plans et scénarios de Salammbô*, Edition et introduction par Atsuko Ogane, Droz, 2016, p. 235. 査読有 (単著)
<https://www.droz.org/france/fr/6335-9782600018951.html>

Atsuko Ogane, *Dictionnaire Flaubert*, sous la direction de Gisèle Séginger, Paris, Honoré Champion, 2017, Champion Classiques (Cybèle, 407-408 ; Danseuses, 414-416; Gustave Moreau, 990-992 ; Judith, 812-814 ; Oscar Wilde, 1736-1737; Reine de Saba, 1413-1415) 査読有 (共著) .

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

大鐘敦子 (OGANE ATSUKO)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号 : 50350541